

<p>学校教育目標</p>	<p>社会を生き抜く自立した児童・生徒 ～やりぬく姿はかっこいいGRIT～</p> <p>○自ら考え、節度ある正しい行動のできる生徒(規律) ○将来に向かって希望や目標をもって前進する生徒(感動) ○思いやりの心をもって共感し、尊敬しあえる生徒(敬愛)</p>					<p>総合評価</p>
<p>運営方針</p>	<p>○基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力を身につけさせると共に、主体的に学ぶ意欲と態度を育てる。 ○人権が尊重される社会や地域を築く人間の育成を目指すとともに、生命に対する畏敬の念をもって、互いに信頼と協力を深める。 ○自然や伝統文化を大切に、美しいもの・崇高なものに感動する豊かな情操を養う。 ○規律ある生活を重んじるとともに、基本的な生活習慣を身につけさせ、たゆみなく自らを高めようとする意欲と実践力を養う。 ○健康・安全に留意し、活力ある生活ができる逞しい心身の育成に努める。 ○職場体験学習や修学旅行をはじめとする諸活動や行事を通じてキャリア教育を推進し、キャリアパスポートの充実を図る。 ○いじめを許さない態度を育てると共に、未然防止、早期発見、組織的な対応に努める。</p>					<p>3</p>
<p>令和3年度の成果と課題 (○成果 ●課題)</p>	<p>本年度の重点目標</p>	<p>具体的目標</p>			<p>3</p>	
<p>【学習指導】 ○コロナ禍であったが、小中合同で3回、「読解力の育成による学力向上」をテーマにリモートで研修を深めた。 ●「家庭学習を全くしない子を0%に近づける」取組を継続して行う。授業以外で全く勉強しない生徒(1年28%・2年35%)の解消を目指す。 【生徒指導・安全指導】 ○SC、SSWの協力によって、ケース会議を開き情報を共有することができた。また、生徒の内面的な部分にも関わり寄り添うことができた。 ●あいさつを含め基本的な生活習慣の確立を目指す。挨拶運動がより活発になるための方策を考える。 【道徳指導・特別活動】 ○ローテーション方式の道徳の授業を行うことで、さまざまな教師の指導にふれる機会を持つことができた。 ○生徒の実態や社会的な問題も踏まえ、授業内容を考え、生徒が自ら振り返り、課題意識や目標を持てるようにした。 ●「ふるさと学習」については、今後も具体的なテーマを設定して実施する必要がある。 ●業務改善に努め、教職員の働き方改革に取り組む必要がある。</p>	<p>○確かな学力 — 基盤的学力の習得 —</p>	<p>学校行事等を精選したり、工夫したりすることによって、授業時間数を増やす。わかりやすい授業を実践する。また、学力定着のため、家庭学習の習慣を定着させる。 「読解力の向上」をめざし、小学校との合同の職員研修を進め、各教科の指導力の向上に努める。</p>	<p>3</p>			
<p>○豊かな心 — 対人関係構築力の育成 —</p>	<p>地域行事に積極的に参加したり、地域の人々との交流を深めたりする中で地域の教育力を活用しながら、ふるさとを愛する生徒を育てる。 「あいさつができる児童・生徒」を育てるとともに、対人関係構築力を育成する。</p>	<p>生徒の規範意識を高めるとともに、よりよい生活習慣が身につくよう取り組む。 危機管理に関する研修の充実を図る。また、関係機関との連携を強化し、SC・SSWの有効な活用を進めていく。</p>	<p>3</p>			
<p>○健やかな体・安全 — 体力の向上と健康意識の醸成 —</p>	<p>生徒の規範意識を高めるとともに、よりよい生活習慣が身につくよう取り組む。 危機管理に関する研修の充実を図る。また、関係機関との連携を強化し、SC・SSWの有効な活用を進めていく。</p>	<p>生徒の規範意識を高めるとともに、よりよい生活習慣が身につくよう取り組む。 危機管理に関する研修の充実を図る。また、関係機関との連携を強化し、SC・SSWの有効な活用を進めていく。</p>	<p>3</p>			
<p>評価項目</p>	<p>具体的目標 (評価小項目)</p>	<p>具体的方策・評価指標</p>	<p>自己評価結果 (5段階評価)</p>	<p>成果と課題(評価結果の分析)</p>	<p>改善方策等</p>	<p>学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策</p>
<p>学習指導</p>	<p>確かな学力を身につけ、進路を切り開くためにやり抜く力を育てる。</p>	<p>アクティブ・ラーニング(主体的、対話的で深い学習)を各教科で毎時間取り組むことを目標とし、ICTを積極的に活用していく。 基礎学力の定着を図るために、家庭学習の習慣づけは必要不可欠であり、「家庭学習を全くしない子を0%に近づける」ことを目標に、各教科・学年単位で具体的に取り組む。また、「学びに向かう力」を育む実践的な取組を行う。 特別支援教育では、個別支援の充実を図っていく。また、2年前、開設された通級指導教室の充実を図っていく。</p>	<p>4 3 4</p>	<p>タブレットの導入3年目で、各教科でICT機器を利用した授業に慣れてきた。タブレットを活用した宿題を提示したり、コロナ禍でリモートでの授業参加が可能になった。 各教科で、授業ごとに課題を出す工夫をし、定期テスト2週間前から計画表をたてさせ、テストに対する早期取組を促した。3年は毎日「ナビ」を提出し、学年担当が確認した。 個に応じた支援や授業について、計画的に実行し、全職員がいていねいに関わることができた。通級指導教室においても3年目ということで体制を整えながら適切に個別の支援ができた。</p>	<p>引き続き、各教科でタブレット等を積極的に活用し授業を行ったり、課題を出したりする。また、個に応じた支援や授業も、より以上に充実させる。</p>	<p>○テスト前の計画表づくりによる効果の検証もお願いしたい。 ○進路指導において、いろいろな情報提供をしながら刺激を与えてほしい。 ○英検については、合格率のアップも図ってほしい。 ○「ナビ」の効果について検証をお願いしたい。 ○タブレット学習で個に応じた学習を提示してもらえれば学力を身に付けやすいと思う。それから各家庭でのネット環境にも配慮いただきたい。</p>
<p>小中一貫教育を進め、小中間の連携強化のための合同研修や共通の目標を設定する。</p>	<p>「読解力の育成」を小中間共通の教育課題であるとし、小中併せて年間、2回、研究授業・協議を行う。また、総合の時間に、「読解タイム」を新設し、読解力向上を図る。 小中合同で英語教育の強化に取り組む英検受験を奨励する。また、小中間の授業交流や学校行事の交流、また体験入学の充実を図る。</p>	<p>3 4</p>	<p>3.5</p>	<p>読解力向上の小中合同研修を5回行い、その中で研究授業・協議を行い、研修を深めることができた。今年度はNIEの取組として、「読解タイム」を新設し、新聞社から講師を招き、スクラップ新聞に取り組んだ。次年度も改善を図りながら取り組む。本校を会場とし、小中合同で英検を行って3年目で、延べ50人が受験した。受験者数や合格者数を増やすように、一層英語に興味・関心を持たせる取組を行う。体験入学はコロナ禍の中、2年ぶりに行うことができた。また、様々な場面でGRITを意識させる取組を行った。</p>	<p>今年度と同様に、年度当初に小中合同研修等を計画立案し、目標を明確にし取り組む。「読解タイム」の改善、充実を目指す。</p>	<p>○テスト前の計画表づくりによる効果の検証もお願いしたい。 ○進路指導において、いろいろな情報提供をしながら刺激を与えてほしい。 ○英検については、合格率のアップも図ってほしい。 ○「ナビ」の効果について検証をお願いしたい。 ○タブレット学習で個に応じた学習を提示してもらえれば学力を身に付けやすいと思う。それから各家庭でのネット環境にも配慮いただきたい。</p>
<p>生徒指導・安全指導</p>	<p>生徒が安心して安全な学校生活を送ることができるようにする。</p>	<p>職員の危機管理意識を高め、校内での事故発生時の動きを研修などの機会を設け、毎学期確認する。今年度、地震に伴う火災を想定した避難訓練を実施する。 生徒の規範意識を高める取り組みとして時間、校則を守るという意識を持たせる。また生徒たちが過ごしやすいうように校則の見直しを図る。</p>	<p>4 4</p>	<p>4.0</p>	<p>危機管理マニュアルを新しく作成し、職員全体で共通理解を図ることができた。地震に伴う火災を想定した避難訓練と不審者に対する避難訓練を実施することができた。また教員も生徒も定着とまではいかないが繰り返して行っていく。 LGBTQに配慮した校則に改正することができてきている。しかしまだ時代に合った校則ではない部分があるので今後も改正を続けていきたい。</p>	<p>危機管理についての研修をいれていく。次年度は危機管理という点であらゆる対応の訓練を計画し必ず実施していかなければならない。 ○挨拶はこちらからすれば、よく返してくれるが、自発的ではないように思う。○ボランティアを増やして、町のあちこちで挨拶や声かけができる環境を作りたい。○信号のない横断歩道で、車が止まってくれない状況がある。横断歩道を渡りたい時に、子どもが手を挙げるなどのアクションを起こしたり、渡った後にお辞儀をしたりするなどちょっとしたことで止まってくれるのではないかと。○様々な問題がある中で、スクールカウンセラーの活用をもっと進めてほしい。○校則等の改正はいいと思う。社会の変化に柔軟に対応してほしい。○避難訓練について、学校でみんなと同じ訓練も大切だが、同時に学校以外で一人で地震や事故に遭った時に対応できるようにしてほしい。</p>
<p>体力の向上と健康意識の醸成に努める。</p>	<p>体育の授業を通じて多様な運動技能を身につけさせていく。保健の授業や保健だよりで生活習慣の改善について伝える。 SCやSSWの有効な活用を進め、個別のケース会議などを随時取り入れ、職員間で共有する。</p>	<p>3 4</p>	<p>3.5</p>	<p>歯磨きは、新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった。保健便りに歯磨きの仕方を掲載し、意識付けをさせた。歯科検診の結果からは改善が見られた。長距離走をふりかえってみると粘り強く頑張ることができた生徒が少なくなってきた。 SCとの連携により生徒の不安等を解消できているように思う。ケース会議を随時行う事によりSCからの的確なアドバイスをもらうことができた。情報共有につながっている。</p>	<p>ケース会議をもつ基礎を策定していききたい。</p>	<p>○挨拶はこちらからすれば、よく返してくれるが、自発的ではないように思う。○ボランティアを増やして、町のあちこちで挨拶や声かけができる環境を作りたい。○信号のない横断歩道で、車が止まってくれない状況がある。横断歩道を渡りたい時に、子どもが手を挙げるなどのアクションを起こしたり、渡った後にお辞儀をしたりするなどちょっとしたことで止まってくれるのではないかと。○様々な問題がある中で、スクールカウンセラーの活用をもっと進めてほしい。○校則等の改正はいいと思う。社会の変化に柔軟に対応してほしい。○避難訓練について、学校でみんなと同じ訓練も大切だが、同時に学校以外で一人で地震や事故に遭った時に対応できるようにしてほしい。</p>
<p>特別活動・道徳教育</p>	<p>集団や社会の形成者として他者や地域とつながり、共に自らも成長していく態度を育てる。 牧野小学校と合同で行う清掃活動を通して、地域の環境美化に貢献する。また、福祉体験や職業体験等を通じて他者や地域とのつながりを持たせる。 特別の教科道徳において、生徒の心に響く授業の創造を目指し、各学年で教材の選定や指導方法等について研修を深める。 体験活動の充実を図るとともに、体験活動と道徳の時間とを関連づけた指導を進める。</p>	<p>4 3 3 4</p>	<p>3.5 3.5</p>	<p>合唱コンクールは観客を限定し、規模を縮小するなどの感染対策を講じて開催することができた。また、録音した内容を動画配信で公開した。体育大会については今年度も保護者の観覧を限定し、感染対策をして実施することができ、一人一人積極的に活動することができた。 地域へのボランティア活動においては前年度同様、牧野小学校と合同で清掃活動を行い、地域の環境美化に貢献することができた。「ふるさと学習」に関しては、校外学習(ラフティング体験)の事前学習として、ふるさと(五條・吉野川)について調べ学習を行った。 各学年で、生徒の実態や社会的な問題を踏まえて、授業内容を考え、生徒が自らを振り返り、課題意識や目標を持てるようにした。携帯電話やタブレットによるトラブルを踏まえ、情報モラルに関する意識を高める必要がある。 福祉体験学習や校外学習、ゲストティーチャー(LGBTQ)等を通して、自らを振り返り、道徳的価値について考えた。体験で学んだことを日常生活に生かすことができるように、今後の道徳の授業でさらに深めて考えさせたい。</p>	<p>「ふるさと学習」に関しては、今後も具体的にテーマを設定して実施していく必要がある。また、実施する際には特定の教科・教師だけに頼らないように留意する必要がある。 引き続き生徒の実態を踏まえて、授業内容を考え、自らを振り返り、課題や目標を持てるようにする。 教師が現状の課題について共通意識をもって生徒の指導にあたる。</p>	<p>○学校行事をコロナ禍前のように実施してほしい。 ○「ふるさと学習」により、五條の魅力をもっと伝えて、若い人の流出を防ぎたい。 ○社会問題になっているインターネットによるトラブルにあわないように中学生のうちからしっかりと対応できるようにしてほしい。</p>
<p>働き方改革</p>	<p>個々の超過勤務時間を昨年度よりも少なくする。 ・働き方改革・業務改善の方法等について研修する。 ・月に1回、一斉退勤日を設ける。</p>	<p>教員の時間外労働の削減や負担の軽減は、なかなか進まない現状にある。部活動を始め、業務の負担の改善にこれからも取り組んでいかなければならない。</p>	<p>2</p>	<p>教員の時間外労働の削減や負担の軽減は、なかなか進まない現状にある。部活動を始め、業務の負担の改善にこれからも取り組んでいかなければならない。</p>	<p>校務分掌の体制の見直しを行う。</p>	<p>校務分掌の体制の見直しを行う。</p>
<p>次年度への成果課題と</p>	<p>【成果】 ○コロナ禍の中、「読解力の向上」をテーマに、小中合同研修を3回、研究授業・研究協議を2回行うことができた。 ○コロナ禍で中止していた体験入学を行うことができた。 ○タブレットを使った授業を昨年度より進めることができた。 ○支援の必要な生徒について、小中が情報交換を密にしながら進めることができた。 ○規範意識を向上させる取組のひとつとして、校則の見直しを行った。</p> <p>【課題】 ●学力に課題があり、家庭学習がなかなか定着しない生徒に対する取組をより以上に進めていく必要がある。 ●生徒の主体的な活動に結びつけるための手立てを、生徒会を中心に考えていく必要がある。 ●危機管理という点で、あらゆる対応の訓練を計画し実行していかなければならない。教師の危機管理意識の向上も図っていかねばならない。 ●地域を愛する子どもの育成に努めていきたい。 ●業務や分掌を見直す中で、働き方改革を進めていかなければならない。</p>					